九大短期プログラム５周年記念シンポジウムに出席して

工学部　　ヴェンカタラマナ・カッタ

平成11年６月19日・20日の二日間、九大の短期留学プログラム「Japan in Today's World Program —通称:JTWプログラム」の５周年記念ワークショップが、九大国際ホールで開催された。目的は「九州大学は全国の国立大学に先駆けて短期留学プログラムを開発し、現在５年目の学生を迎え順調に進行している。それを記念するとともに、全国14の国立大学で行われている類似のプログラム全体の発展を図るために、教育方法の改善を目指すものである」とワークショップ案内に記載されていた。ワークショップは「短期留学プログラム：現状と展望」というテーマで行われた。鹿大からは、短期国際プログラムを担当している佐藤道郎先生の代理として、農学部のヒッシャム先生と私が出席した。

ワークショップの資料として、次のものが配布された：

(1) プログラム内容が記載された案内
(2) 九大広報 （特集：九大の国際交流） （1999年5月発行）
(3) KYUDAI news （1999年3月発行）
(4) Outline of the Student Exchange System in Japan（1998年、文部省発行）
(5) 短期プログラム在籍者向けのアンケートの例
（九大短期プログラムの評価の資料として）
(6) ワークショップに出席している他大学の短期プログラムに関する資料

ワークショップは、九州大学総長の挨拶によりスタートした。次に、文部省留学生課からの「外国人留学生の受け入れ状況、国際短期プログラムの目標など」について説明があった。文部省は前向きに協力・援助するので、大学から色々な事業を計画して、実行案を出して欲しいというアドバイスもあった。 続いて6人の外国人講師（米国）によるモデル授業があった。授業終了後、パネリスト（米国、韓国、シンガポール等からの招待教員および九大留学生センター教員）による討議が続いた。我々参加者も活発な議論に加わり、意見交換を行った。ワークショップの一部として、九大短期プログラムの5人の修了生、在籍者からの意見発表もあった。

モデル授業について少し述べる。モデル授業は主に文化系のもので、日本語・日本文化、東洋文化を専門にしている外国からの講師を招き行われた。授業タイトルは次のとおりであった。

モデル授業1： China's Self-strengthening Movement（1860－1895） in Comparative Perspective　　スミス教授（米国ライス大学）

モデル授業２：　Zen Buddism and Culture in Medieval Japan
コルカット教授（米国プリンストン大学）

モデル授業３：　Hitomaro's Laments
ケイマン教授（米国イエール大学）

モデル授業４：　Women and Gender
トノムラ準教授（米国ミシガン大学）

モデル授業５：　Narrative Strategies in Ozu's Tokyo Monogatari
カドー助教授（米国アムハースト大学）

モデル授業６：　Myth and Legend in Kojiki
ピニントン助教授（米国アリゾナ大学）

モデル授業５の場合は、短期留学プログラムの在籍者に映画を前日見せて、その内容についての学生からのコメントを求めたり、議論するというものであった。講師によって、一方通行の授業もあり、学生に積極的に参加できるように講師が機会を作るようなものもあった。ワークショップの席の配置は図で示してある。

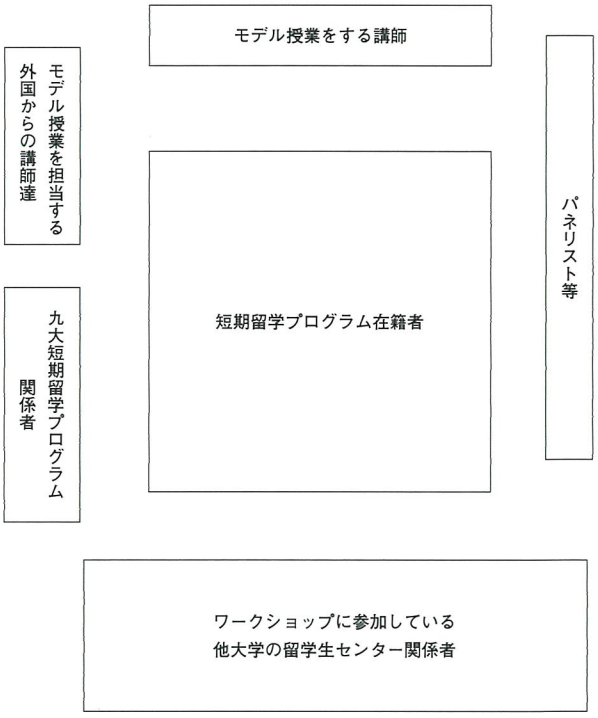

図1：ワークショップの席配置

モデル授業の内容は文化系のものであったが、もっとも一般的なもので、分かりやすかった。授業の進め方、学生とのinteraction　等の勉強になった。日本の大学では、講師の一方通行の授業が多く、学生が寝ている姿を経験している。私の専門は工学で、物理・数学式がよく出て来る。もし、鹿大でモデル授業を行うならば、理工学系教員対象のモデル授業も欲しいと思う。

外国人教師による九大短期プログラムの評価のための短期プログラム在籍者向けのアンケートでは、１から５までの５段階評価を実施していた。

（１＝excellent, ２＝very good, ３＝good, ４＝average, ５＝below average, ６＝poor）

アンケートは五つに分けられていて、次のような質問で構成されていた：

Part1：短期留学プログラムの一般の評価に関するもの

Quality of Japanese Language Training, Quality of instructions in other fields,
Overall education experience, Overall cultural experience, Overall value of the program

PartⅡ：九大の設備とサービスに関するもの

Housing, Food, Library, Computer facilities, Academic advising, Personal advising, etc.

PartⅢ：短期留学プログラムの授業に関するもの

Ovarall evaluation, Qualities you most like in your teachers,

Qualities you least like in your teachers,

Most effective classroom techniques (lectures, discussions, audio-visual materials including internet, handouts, etc), Least effective classroom techniques,

Special problems in learning about a foreign culture

PartⅣ：その他

Most successful enjoyable extracurricular activities at Kyudai(and Why?),

Least successful／enjoyable extracurricular activities at Kyudai(and Why?),

Suggestions for improving extracurricular activities at Kyudai

PartⅤ：その他にコメントしたいもの

（残念ながら、アンケートの結果を知る事が出来なかった）

九大では、定期的に英字で書かれた九大ニュース（KYUDAI News）を大学間協定を結んでいる国外の大学等に発送して、情報交換を行っている。私が読んだ九大ニュースでは、総長の挨拶、九大を訪問した韓国総理大臣の講演、九大留学生および日本人の国際交流事業、九大の先端研究情報、九大応用力学研究所に客員教授として来日している英国オックスフォード大学教授の記事等が記載されていた。

九大広報（特集：九大の国際交流、1999年５月発行）では、留学生座談会、国際交流の歴史と展開、福岡市の国際交流の話題、JTWと交換留学等について書かれていた。

以上は簡単であるがワークショップ関連の報告である。鹿児島大学でも留学生センターが平成12年度に設置される。九大の例を参考にしながら、鹿大独特のものとして、発展することを期待したい。

私は福岡市に何度も行った事があるが、九大は初めてだった。特に留学生センターのビルが印象に残っている。ロビーに留学生向けの各種の案内、パンフレットが掲示されてあった。国際交流に関するもの、中古販売の広告、注意事項等様々の事が日本語・英語で記載されていた。英字新聞も置いてあった。外国の大学に留学するための資料もあった。留学生のための日本の情報、日本人学生のための外国の情報があって、だれでも気楽に入って、必要なインフォメーションを得るような雰囲気でした。センターの事務室、教員の研究室も何となく friendly の感じを与えてくれた。一緒にいたヒッシャム先生に、「鹿大でもこのようなセンターができたら良いな」と話した。

最後に、ワークショップに配布された資料がヒッシャム先生と私の研究室にあります。興味をお持ちの方はどうぞ連絡下さい。